

ほなみ通信

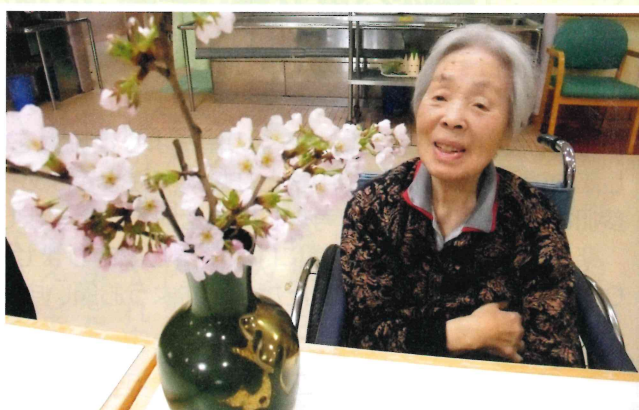
第90号

2020年6月11日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571



デイサービスセンターひばり

思い返せば…

初代管理者（現法人事務局長）

細貝 昌明

平成10年7月10日より新潟市指定管理事業として受託し、運営してまいりました『老人デイサービスセンターひばり』が、本年3月31日をもって無事業を終了しました。

当時は、まだまだデイサービスの施設数が少なく、利用までに2～3ヶ月待ちの時代でした。現在の新潟市中央区窪田町に建設された『入船地区いきいき福祉センター』に開設した単独デイサービスセンター（公設民営）でした。老朽化した老人憩いの家の建て替えに伴い、高齢者の在宅生活に欠かせないデイサービスセンター建設の運動でできた施設です。当初は1日当たり20～25名の方がご利用になり、大変活気に満ちた施設でした。穂波の里から離れており単独施設ということもあって、職員の配置など運営上で苦労することも多くありましたが、穂波の里同様地域に根差した開かれた施設として地域の皆様の福祉サービスに答えられたと自負しております。

新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて

法人事務局長 細貝 昌明

法人坂井輪会では、北海道、東京、大阪など大都市圏で感染事例が出始めた段階（1月末）より、感染症対策委員会を中心に感染予防対策指針をまとめ「施設にコロナを持ち込ませず」を合言葉に、入居者や在宅サービスご利用者の方々の健康チェックに例年以上に力を入れています。国が緊急事態宣言を出した時点で対応策のレベルをもう一段上げて、特養・ショート・ケアハウス等に於いてはご不自由をおかけしていますが、不要不急の外出や面会をお断りしたり来訪者の方の検温を行っていました。一方職員も出勤時の検温の実施と発熱時の出勤停止を厳密に行い、感染予防に全力を挙げています。

新型コロナウイルスの収束の目途は未だに立っていません。完全に収束するまでには半年、1年かかるとも言われています。長期戦で対応することが求められます。感染予防に必要な使い捨てマスクや消毒用アルコール、防護衣等の資材が慢性的に不足しています。そのような状況で感染予防対応を

今回、施設の老朽化と地域の高齢者人口の減少、介護保険施設の充足に伴い本来の目的は達成されたものとして、新潟市が事業所閉鎖を決定されました。下町地区より離れるのは大変寂しく残念ではありますが、20数年もの間デイサービスセンターひばりをご愛顧いただきまして誠に有難うございました。運営に携わりました職員を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

お世話になりました

元管理者 藤田 みゆき

デイサービスセンターひばりは平成10年の開設から22年が経ち、令和2年3月31日をもって閉鎖となりました。

閉鎖をお伝えするほとんどのご利用者やご家族が、自分たちのことよりも職員のことを気にかけてくださり「4月からどうするの？」と心配してくださいました。最後までひばりを利用したいとおっしゃってくださる方も多くいらつしやいましたが、今なら空きがある等移行先の状況から、早めに移行が決まる方も多く、毎月ご利用者が少なくなっていました。「ひばりさんがなくなるのは

寂しい」と、最終日に涙される方もいらつしやいました。

また、民謡ボランティアさんからお話があった際、今年度いつばいでの閉鎖が決まっているためご利用者も少ないので、とお断わりしたところ「ひばりさんには長いことお世話になったから、ひばりさんさえ迷惑じゃなければご利用者が1人でもいいから最後にボランティアに行かせてほしい」と言ってくださり、実現しました。ケアマネさんからも「ひばりさんだからこんなに丁寧にやつてもらえた」「ひばりさんにお会いすれば安心」とお言葉があり、今まで私達が行ってきた援助や姿勢が評価されている、と実感しています。（社会福祉法人坂井輪会 第26回総括会議資料より）

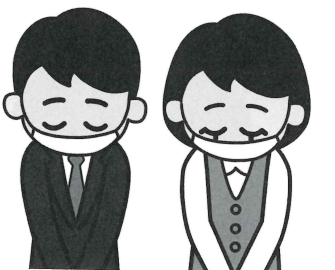


『穂波の里盆踊り大会』中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、誠に残念ではありますが、関係者皆様と協議の結果、今年の盆踊り大会は中止させていただくことになりました。毎年、夏の風物詩として多くの皆様よりご協力をいただき、坂井輪会としても開設以来初めての中止となり大変残念ではありますが、入居者や利用者、参加される皆様の安全を考慮し中止と決定いたしました。

楽しみにされていた皆様には大変申し訳ありませんが、未曾有のことでもありますので、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

穂波の里盆踊り実行委員会
担当 古藤 悦子 (025-269-1600)



長期間維持することは、物心両面で非常に困難を伴いますが、ご家族の方々より手作りマスクのご寄付や予防衣の幹旋等のご協力を得ながら職員一丸となつて奮闘していく所存です。大変心強いご支援と感謝しております。

ご家族の皆様や地域の皆様、今が辛抱の為所です。新しい生活様式が求められています。どうか新型コロナウイルス感染にご注意いただき、収束するまでお元気で過ごしてくださいようお願いいたします。

令和元年度 苦情処理 第三者委員会報告

日時 令和2年2月18日（火）

午前10時～11時

場所 穂波の里会議室

出席 山田 豊（評議委員）

森田法子（評議委員）

細貝昌明（法人事務局長）

古藤悦子（特養施設長）

昨年度の苦情は4件（特養1件、デイサービス1件、包括1件、シヨートステイ1件）でした。

1件目は、近隣より職員駐車場に停めている車のライトが夜間まぶしいとの苦情でした。変則勤務の職員は使用せず、日勤職員のみ使用することにしました。

2件目は、デイ送迎車の停車位置が道路中央で自転車往來の邪魔になるとの苦情でした。ただちに移動し停車位置を直し謝罪しています。

3件目は、包括支援センターの予防給付プランの方より「訪問が何カ月もない」との苦情がありました。確認すると訪問予定日が一

度キャンセルとなり、担当職員もそのままにしていた状況でした。すぐに謝罪しこまめに相談対応を行うことを確認、担当を変更せずに継続しております。

4件目は、シヨートでケアマネ・ご利用者・ご家族より苦情をいただき、後日、介護保険課からもご指導いただきました。内容についてはご家族への連絡の仕方、利用中の排泄・入浴援助や内服薬確認方法、退所時の荷物の入れ方等、細かくご指摘いただきました。一つ一つ職員確認しお伝えしましたが、ご納得いただけない内容もあり、残念ながらその後のシヨート利用は困難となりました。

第三者委員からは「デイや特養と異なり、利用期間の短いシヨートはご家族との関係性も築きにくく苦情につながりやすい。ご家族としても気持ちを受け止めてもらえなかった、と感じたことで介護保険課への苦情にもつながったと思う。サービス担当者会議等で管理者や相談員、介護職員が利用者の状態を細かく伝え、ご本人ご家族との関係性を築いていけるよう努力していくことが大事。」とのご意見をいただきました。



※次のページで各部署の取り組みと現状を紹介いたします。

新型コロナウイルス 感染拡大防止の対応

特養 穂波の里

施設長 古藤 悦子

当施設では冬のインフルエンザやノロウイルス等の感染予防対策として、次亜塩素酸を使用し床や手すりを消毒、職員はマスクを着用していますが、高齢者施設内での蔓延を防止することから、2月末よりご家族への面会禁止や民生委員・ボランティアさんの来訪を縮小せざるを得ない状況となりました。

また、情報番組に煽られるよう使い捨てマスクや消毒液、ガゼ等の医療品が入手困難となり不安を感じていたところ、医療用マスクや消毒液を安価で譲ってくださる方や、手作りマスク作成のご協力やご寄付をボランティアさんより頂きました。

新型コロナウイルスの感染防止は「3密」となる集まりを避けることが基本ですが、今までのつながりがあつた方々に助けられ、職員が気づかされることも多くあり

ました。

入居者の皆様にとつてもご家族に会えない寂しさや違和感を覚えた方も多く、グループ間で音楽や体操等で気分転換をしながら過ごされています。様々な行事が中止となり、入居者健康診断も延期させていただきました。長期化するこの状況が少しでも好転し、ご家族の面会が早期に再開できればと思います。私たちも感染症を施設に持ち込まないよう気を付けながら、今後も援助していきたいと思っています。



グループホーム穂波の里

管理者 佐藤 美加子

グループホームは、感染症が流行する時期より早めに感染予防に努めていこうと、昨年の11月から職員は出勤前の検温とマスクの対応を行っています。入居者は今まで以上に細目な手洗いや、うがいの代わりに毎食後の歯磨きに努めていきましたが、今年に入り新型コロナウイルスの流行が始まり、更に外出や外部との面会を取りやめ、食材の買物物は職員だけで行っています。さすがに入居者もステイホームが長くなり、職員が支援し、入居者のご希望があればご家族に電話を繋いだり、近況をお手紙にして送っています。また、天気の良い日は車内だけになりますがドライブに出掛けたり、敷地内を散歩したり気分転換も図るようになっています。職員、入居者共に一丸となって元気に感染予防に努めています。

デイサービスセンター穂波の里

管理者 佐野 健一

○事業所として
・出勤前の検温
・マスク着用の徹底

者数やご利用者の生活に大きな支障は出ていませんが、基本面会を禁止させていただいており、連日面会に来られていたご家族には大変心苦しい限りです。先の見えないウイルスとの闘いですが、職員一丸となって日々の援助に取り組んでいきたいと思っています。



地域センターたんぽぽ寺尾上

センター長 内田 浩貴

地域センターでは、基本的なこととなりますが感染症防止の取り組みとして、毎朝の検温とマスク着用、外出後の手洗いや手指消毒の徹底、室内の換気に努めております。今後も職員自らが感染源とならないため、引き続き体調管理に努めていきたいと思っております。合わせてご利用者の皆様には、感染防止の意義及び手洗い・マスクの着用などについて、ご理解とご協力をいただきながら通常通りの事業を実施しております。とはいうもののご利用者の中には「コロナウイルスに感染するのが怖いから利用を一旦中止します。」と利用を控える方が増えてきており

ます。一方で「いつここが休みになるか心配です。運動をする場がなくなるし、自宅では一人だから交流の場も無くなる。」との声や、ヘルパーご利用者からは「来てもらわれないと生活ができないから、日頃マスク着用を心掛けている。外出も極力控えている。」「このよ

うな時期なのに、来てもらっても良いのですか？助かります。」との声が多く聞かれています。現状です。不安が不安を呼び、先が見えない今だからこそ、ご利用の皆様の話を傾聴し、一人一人に寄り添った援助を引き続き心掛けていきたいと思っております。

また、現在たんぽぽ広場やたんぽぽ拳の開催を見合わせております。再開を心待ちにしている皆様には大変ご迷惑をおかけしておりますが、国の動向を注視し、県や市の方針を参考にしながら一日も早い再開を目指していきたいと思っております。

地域包括支援センター坂井輪

介護予防体操等休止延長の弊害

私どもがかかわる週一開催の介護予防体操等の集まりも休止を延長せざるを得ない状況が続いております。早いところでは2月下旬



より休止しておりますので、このまま休止が長引くようだと、高齢者の皆様に及ぼす影響として、生活不活発病等の弊害が心配されます。生活不活発病とは、動かないことによる運動機能の低下や認知機能の低下、うつ状態がみられることです。そのため、包括として介護予防のために今できることは何かを模索しながらも、それぞれの集まりの皆様つながりが途切れることのないよう努めてきました。

第一弾として、3月下旬より4月上旬にかけ、郵送にて自宅でも続けられる体操を紹介し、できるだけ体を動かすことを心がけていただくよう呼びかけました。その際は、馴染みのある体操の中からこれだけは続けて欲しいというものに限定し、少なくとも参加されていた同じ曜日と時間の週1回

・フロア内の1時間に1回の換気（送迎車内も換気）
・椅子やテーブル・床・手すり・車椅子・送迎車等の消毒
・通常よりテーブル席の間隔を空け対応等

○ご利用者・ご家族に対して（文書を配布しております）

・（再度）利用前の検温のお願い
・マスク着用のご協力
・ご家族に体調不良がある場合や県外の方々と接触された場合の情報提供等のお願い
影響としては、ご利用者数には変化はありませんでしたが、毎年4月に予定していた『お花見外出』を中止させていただきました。

今後も状況を見ながら、外出を伴う行事に対応していきたいと思っています。

引き続きご利用者や職員の安全に十分留意し、サービスを提供してまいります。

ショートステイ穂波の里

管理者 植木 聡明

私たちは職員の出出勤前の検温や玄関に消毒用マット、面会簿の設置を行い、職員間でも手洗いをいつも以上に気を付け、感染予防に努めております。今のところ利用

は、参加者皆様の顔を思い浮かべながら実施していただきたいの思いを込めました。

第二弾は、参加者に通常開催の場所と時間に出かけてきていただく方法をとりました。少しでも体を動かす機会を設けたいのと、顔を合わせて一言二言でも言葉を交わすことができれば気分転換になると考えたからです。ただし屋外で、分散してきていただくよう十分な時間を確保し、マスクの着用、短時間で用件を終えるように気をつけました。

雨模様の寒い中を、それでも通常開催の5割くらいの方々が出かけてきてくださいました。外出を控えておられる方々やそのような機会は危険と考えておられる方々がいらつしやるのも十分理解できます。一方で「会いたかった」「顔を見たら涙が出そう」と、また、体操をすることを期待して来られた方が少なくなかったことも事実です。

この先まだまだ我慢の時期が続きますが、参加者の安全を優先し、どのタイミングでどのような形態であれば再開が可能なのか、それぞれの状況に応じて、今後もつながりを大切にかかわっていききたいと考えています。（担当 梁取）

〔在宅部門〕 注 ()内の増減数は昨年度比
デイサービス

	穂波の里 (定員30名)
年間延べ利用者数	9,120名 (1,431名増)
一日平均利用者数	25.1名
	道場山 (定員12名)
年間延べ利用者数	2,232名 (301名増)
一日平均利用者数	6.1名
	ひばり (定員30名)
年間延べ利用者数	1,553名
一日平均利用者数	5.9名
	たんぼぼ寺尾上 (定員15名)
年間延べ利用者数	109名
一日平均利用者数	0.6名

配食サービス

2020.3利用実数	35名
年間延べ配食数	6,839食
委託業者	4,477食
自主事業	2,362食

ショートステイ

年間延べ利用人数	10,203人 (204名増)
一日平均利用数	27.8名

〔ケアハウス〕 2020.3末

入居者数	40名	要介護1	6名
自立	13名	要介護2	4名
要支援1	6名	要介護3	4名
要支援2	6名	要介護4	1名

〔グループホーム〕 2020.3末

入居者数	9名	要介護2	5名
要支援2	1名	要介護3	1名
要介護1	1名	要介護4	1名

ヘルパー穂波の里

2020.3利用実数		8名
年間延べ派遣	件数	延べ日数
介護給付身体介護	43	286
介護給付生活援助	41	356
総合事業（現行相当）	146	717

ヘルパーたんぼぼ寺尾上

2020.3利用実数		37名
年間延べ派遣	件数	延べ日数
介護給付身体介護	143	1,017
介護給付生活援助	49	276
総合事業(現行相当)	140	765

※ヘルパー事業全体の稼働時間 3,552時間 (155時間減)
※ヘルパー事業全体の廃止件数 17件 (1.5倍増)

地域包括支援センター

総合相談(延べ件数)	7,469件
権利擁護(延べ件数)	489件
困難事例(ケアマネ支援・延べ件数)	781件
予防ケアプラン(2020.3.31現在)	621件

地域あんしんサポートセンター

らくらくショッピング	利用回数	45回
------------	------	-----

※買い物支援サービス

居宅介護支援事業

ケアプラン(2020.3)	208件
---------------	------

〔道場山穂波の里入居部門〕 2020.3末

実数	28名	要介護4	9名
要介護3	12名	要介護5	7名

在宅部門

2019年度まとめと2020年度方針

年度末で事業を終了したデイサービスセンターひばりを除くデイ(穂波の里、道場山穂波の里)とショート(短期入所)の稼働率が好調でした。反面、ヘルパー(訪問介護)はたんぼぼ寺尾上と穂波の里の2ヶ所になりましたが、施設入所や亡くなられた方が多く、全体の稼働時間が減少する結果となりました。新しく事業を開始したデイサービスたんぼぼ寺尾上(基準緩和型通所介護)は、西区内で基準緩和型事業所の閉鎖が続き、1月～3月の新規登録が伸びてきています。

在宅ではショートを使いながら特養入所を待っておられる方が多くなっています。デイ利用の目的も、以前の入浴重視から機能訓練重視へとシフトしています。利用制限がかかって訪問介護は利用しづらいものとなってきていると言えます。来年度は、介護保険制度、介護報酬改定の年です。抜本的な制度の改善が求められます。

2019年度

穂波の里1年間のまとめ

〔入居部門〕

①平均年齢

2018.3末	88.0歳
2019.3末	87.8歳
2020.3末	88.5歳

②退去された方の状況

2018.3末	23名(入院退去 12名 施設看取り 9名 療養型 1名)
2019.3末	14名(入院退去 8名 施設看取り 6名)
2020.3末	16名(入院退去 12名 施設看取り 9名 療養型 1名)

③要介護度(2020年3月現在)

要介護3	10名
要介護4	37名
要介護5	30名

平均介護度4.26
(前年度4.18)

④医療状況

入院 26件 (前年度31件)	経管栄養	3名
	胃ろう栄養	3名
	尿道カテーテル	4名

⑤入居申込数、待機者数

年間申込数(2019年度)	80名
2018年3月末現在待機者数	153名
2019年3月末現在待機者数	163名
2020年3月末現在待機者数	163名

⑦リハビリ実施状況

作業リハ	延べ	1,139名
小集団リハ	延べ	2,602名
個別リハ	延べ	1,300名

⑨入居者の会

世話人会	月1回
グループ会	各月2回(3グループ)

⑩地域との連携

・昨年度は春と秋の草取り大作戦でボランティア・ご家族、実習生、地域の皆様とともに多くの方々とカレーを食べながら交流することができました。盆踊り大会は台風の影響から室内開催になりましたが、例年通りに出店も多く、地域の皆様と楽しむことができました。現在は新型コロナウイルスの状況から民生委員・ボランティアさんも来訪を控えていただいている状況です。地域の様々な活動も中止や延期となっており、早期の収束を願うばかりです。

入居部門

2019年度まとめと2020年度方針

特養穂波の里の入所待機者数は163名、道場山穂波の里の入所待機者数は73名と概ね前年同様の状況です。新入居の平均年齢は86.6歳で入所された方の中には98歳の方もおられました。平均入所期間は4.20年で昨年の4.90年よりも短く、残念ながら熱発や嘔吐、肺炎等での入院をきっかけに食事摂取が困難となり、施設に戻れず退所となるケースも多くみられます。

平均要介護は4.26と高い状況ですが、入居者の意見・意向を創意工夫しながら伺い、職員全体でより良い援助につなげていけるよう今後も支援していきたいと思ひます。



管理者交代の挨拶

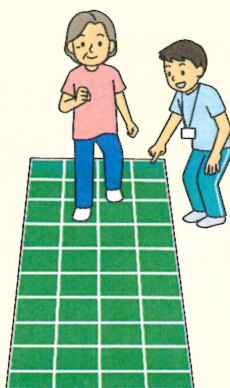
デイサービスたんぽぽ寺尾上



管理者
石川 麻美

令和2年3月より管理者を拝命いたしました。石川麻美と申します。穂波の里に入職して10数年、特養やデイサービスでお世話になった経験を土台とし、たんぽぽ寺尾上という新天地で大輪の花を咲かせることができるよう精進してまいります。

デイサービスたんぽぽ寺尾上では、スクエアステップ¹⁾、体しやりきり体操²⁾の運動プログラムを実



1) ステップパターンを見て覚えて、間違えないよう足踏み(ステップ)をしなから前に進む運動プログラム(右)

2) 新潟市が高齢者の介護予防のために考案した体操。5/3(前編)・5/17(後編)市報にいがた別冊情報ひろばに掲載されました(下)

施しております。4月より体しやりきり体操を新設したことで運動の幅が広がりました。現在多くのご利用者からご参加いただき、皆様真剣な表情で運動に取り組んでおられます。また脳の活性化を行うプログラムでは、和気あいあいとした雰囲気の中、皆様楽しみつつ実施しております。

今後もデイサービスたんぽぽ寺尾上がご利用者や地域の皆様に信頼される事業所となれますよう、質の高いサービスの提供に努めてまいります。まだまだ未熟で迷惑をおかけしますが、引き続き皆様からのご指導、ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

